

医療・福祉

薬だつ知識

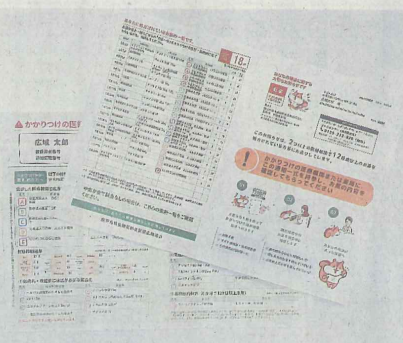
98

年が明け、健康への意識が高まるこの時期、自身や家族の「おくすり」を見直してみませんか。「処方箋がないと薬局へ行きにくい」と感じている方もいるかもしれませんが、薬局はもともと気軽に利用して大丈夫な場所です。

実は、皆さんが加入する国民健康保険や後期高齢者医療制度から、薬の処方が多い人を対象に、はがきや封書で通知が届くことがあります。今の薬が本当に合っているか、一度専門家と確認するきっかけをつくる「適正服薬支援事業」です。通知が届いたら、ぜひ

お薬相談

鹿児島県後期高齢者医療広域連合から届く多剤併用者向けの通知（サンプル）



薬局や病院に相談に行ってみてください。

もちろん通知が届いていない方も大

薬局にもかかりつけを

歓迎です。薬局は薬を渡すだけの場所ではありません。「薬を飲むと胃の調子が悪い」「家族の薬の管理が難しい」「サプリメントとの飲み合わせが心配」など、わずかな不安や疑問も薬剤師が随時受け付けています。

特に高齢になると、複数の病院から多くの薬をもらう「多剤併用」になりがちです。飲み間違いや副作用を防ぐためにも、薬を整理することは健康を守る大切な一歩です。

お薬手帳や今飲んでいる薬（市販薬やサプリメントも含む）をまとめて薬局に持参し、窓口で「相談にきました」と伝えるだけです。家族が代わりに来ることもあります。

新年のスタートに「おくすり整理」を実践し、すっきり安心して健康生活を始めましょう。あなたの街の薬局をいつでも頼れる「かかりつけ薬局」にしてみませんか。

（鹿児島県薬剤師会医療福祉委員会・前園崇仁）

令和8年1月6日（火）
98．お薬相談